

PR

ATACから“ものづくり現場の品質管理の手引書”を出版しました

中堅・中小企業へのATAC提言集 **新ものづくり現場の品質管理**
長田徹著 平成26年3月28日初版 (一財)大阪科学技術センターATAC発行
1,000円+税



ものづくり現場で、職場の皆さんと問題解決に取り組む仕事をしておりますが、多くの企業で、管理監督者は欠員の補完作業や未熟な作業員のOJTをしながら生産効率が落ちないように手助けをするのが精一杯で、本来業務である生産スケジュール管理や設備管理、品質管理、教育訓練、などに手が回らない、そのために作業効率が上がらず不良品発生 of 事後処理に追われる、という悪循環に陥っています。

長年にわたる景気低迷や団塊の世代の定年により、ものづくり現場では、非正規労働者が増え、

技術の伝承が不十分で且十分な教育も出ていない状況にあることに気付きます。

企業は目指す経営理念を達成し存続するためには利益を上げなければなりません。そのためには、企業の部門長である管理監督者はトップの方針を理解し、上司の目標や計画を基に自部門の目標や計画を達成しなければなりません。

ものづくり現場では管理監督者が、4M（人・設備・原材料・方法）を効率的に活用し、QCD（品質・価格・納期）の目標と計画を達成する役割を担っております。

この冊子は“品質管理”とありますが、統計学には殆ど触れずに、管理監督者が「日常管理」や“管理のためのPDCA（計画・実施・チェック・処置）”を武器に本来の職務を果たす手引きとなることを目標としています。

編集後記

久しぶりに書評を載せました。大企業も手がけない独創技術で有名な林原が経営破綻した経緯を元社長が綴られた力作で、同族経営の恐ろしさを感じました。この林原が破綻以来の新商品として幅広い食品の素材に使える水溶性の植物繊維「ファイバリクサ」を発売するという新聞記事（日経、9/29）を読んで、トップが退陣しても林原のDNAは健在だと感じ、嬉しく思いました。（池田隆）